

心のバリアフリーを広げよう

エレベーターの鏡

町役場に入って右側の奥にエレベーターがあることは、みなさんご存じだと思います。そのエレベーターには、鏡が取り付けられていることもお気づきでしょう。

ですが、なぜエレベーターに鏡がついているのか考えたことはありませんか？

私はその鏡で、髪型や服装を直したりすることに利用していましたが、そういう理由だけなら、わざわざ多くのエレベーターに鏡をつけることはありません。その答えは偶然にも、エレベーターに乗り合わせた車イスを利用するお母さんと、幼い女の子の話から教えてもらいました。

女の子「ママ、エレベーターの鏡はね、バリアフリーなのよ。知ってた？」

母親「バリアフリー？ 難しい言葉を知っているのね。ママ知らなかったわ。教えてちょうだい」

女の子「いいよ。あのね、マ

マが降りるとき、バック・オーライってするの」

母親「ああ！ そうね。バックで降りるとき、鏡があると後ろが見えるから、とっても安心できるものね」

女の子「そう。エレベーターの鏡は、『カワイイ』って見るものだけじゃないのよ」

そう言うてにっこりとほえみ、先に外に出て「ママ、いいよー」と声をかけました。

心のバリアフリー

世の中の多くのことに意味があるように、エレベーターに鏡がついているということにも深い意味があるのです。

また、ある時病院の待合室で、車イスを利用して人と話をする機会がありました。

「車イスを利用するようになって、エレベーターでたくさんのお優しいに出逢います。ドアが開まらないように介助してくれる人。乗るスペースを空けてくれる人。混雑しているとエレベーターが来ても、

なかなか乗り込めずに見送ることもあります。そんな時、『どうぞ』と声をかけてくれる人。エレベーターに乗っている時間は、本当にわずかですが、私はとても幸せな気持ちになるんです。今日もたくさんの方の『心のバリアフリー』のおかげで安心して外出できます」

そんな話を聞き、知らず知らずの間に私も笑顔になり、心がとても温かくなりました。

人権を守る意味

エレベーターの鏡一つから、私たちの「人権」を、大切にすることの意味を考えることができました。

えっ、これから先、私が鏡のついていないエレベーターに、車イスを利用されている人と乗り合わせたらって？

当然、先に外に出て、「大丈夫ですよ」と声をかけ、お手伝いします。

益城町教育委員会

ふるさとこの地名漫歩

歴史の変遷と地名

363

飯田山常楽寺②

百済の高官で文官兼武官でもある日羅が仏僧の上人と敬称されたのはなぜかですが、これには聖徳太子信仰が根底にあるとされます。

延喜17(917)年藤原兼輔が日本書紀などを参照して聖徳太子を神格化した「聖徳太子伝略」を著わし、その中に幹縁文と同じ日羅と太子が面会し、日羅が光を放ち太子がそれに感応した事が書いてあり、この書が流布してその後、僧の皇園著「扶桑略記」(嘉保元年↓1094)虎関師練著「元亨釋書」(元亨2年↓1322)が「聖徳太子伝略」を下敷きにして著述され、3冊で12世紀には太子信仰とともに日羅上人信仰も定着してきたとされます。

「肥後国誌」には聖徳太子の常楽寺創建説を紹介し、また日羅上人開基説として常楽寺と益城町下陳の千光寺を記しています。他にも九州だけでも、鹿児島県下で8寺院・1神社、宮崎県で5寺院、大分県で7寺院・7石仏などで、熊本県では常楽寺・千光寺を

除き10寺院と、日羅上人開基伝承を持つ寺院の多さに驚きます。しかし、日羅は来日以来100日足らずで暗殺され、これほどの寺院の開基は不可能で、後世いかに聖徳太子・日羅上人信仰が強く広範であったかの反映です。

「肥後国誌」の著者森本一瑞は、この「聖徳太子伝略」「扶桑略記」「元亨釋書」の古記を「日羅は」ソノ年十二月晦日殺サル。ソノ間僅カ二百日ニ不足。九国二島ノ遠ニ及ビ數個ノ寺院ヲ草創スル事甚ダ怪シミ疑ウベシ、…日羅ハ武將勇士ニシテ僧ニアラズ…一言半句仏法ノ事ヲ謂ズ。聖徳太子ニ謁タル事見エズ…書紀ノ外記典ナシ(三書は)皆浮屠ノ言作不足信」と断じました。

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策



日羅伝の表紙